

港区立高松中学校 各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	区の学力調査の結果、各学年とも目標値を上回っているが、内容別正答率では「漢字を書く」がやや低い数値となっている。漢字を読むだけでなく、場面に応じて適切に漢字をつかいはける力もふくめ、「漢字を書く」力を高める必要がある。また、「聞くこと」に関して、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意して聞き、それをふまえ、自分の考えをわかりやすくまとめ、伝えることに結び付ける力を高めることも今後の課題である。
	今年度の取組	「話す・聞くこと」について集団討論パネルディスカッション等を通し、他者の考えと自分の考えを比較し、意見をまとめること、また、聞き取った内容や表現方法を評価し、自分の考えを広げ、深める学習を継続的に行う。漢字の学習については確認テストに加え、すべての単元の中で、文脈に即して漢字を書くことを意識する活動を取り入れていく。
社会	昨年度の課題	区学力調査の結果を見ると、前年度学習した内容での正答率が低くなっており、既習知識の定着が弱いことが見て取れる。教科特性として、通常の授業の流れの中では既習知識を常に確認することができるわけではないので、意図的な仕掛けが必要である。資料読解の技能や、思考する力は高まりが見られ、定期テストでも論述問題での無答率は少なくなってきた。より高度な思考力を育成していくためにも基礎・基本となる知識の定着が課題である。
	今年度の取組	単元を貫く課題を設定し、既習知識を活用しながら課題に取り組む学習活動を設定していくことで、基礎・基本を定着させながら思考させる場面を設定する。また資料を読み取る能力は育ってきているが、その精度を上げるため、提示する資料を精選して確実な読み取りを行うことを意識する。
数学	昨年度の課題	区学力調査の結果より、目標値は上回っているが活用問題に関して十分な結果が得られていない。各学年の結果を見ても、十分な定着ができていない領域がある。数学への関心・意欲・態度も十分な数値とは言えないことや数学的な見方や考え方の力をどう養っていくかが課題である。
	今年度の取組	家庭学習を定着させることで基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。その成果を定期的な小テストで評価することで、生徒の自信に繋げていく。見方・考え方の力をつけるために、意図的な仕掛けを授業内に取り入れ、話し合いを行うことで生徒の同士の考えを共有することで、生徒自身の思考を深める。
理科	昨年度の課題	区学力調査の結果は各学年とも目標値を上回っているが、電気分野や動物・植物の基礎的内容で正答率が低くなっている。そして、定期考査の結果からも基礎的内容の定着が不十分な群があり、学習内容の確実な定着が課題と考える。また、定期考査の結果やレポートの内容からも、実験・観察の技能の定着は高いが、科学的思考力が不十分となっている。提出物等に関しては、おおむね提出率が良いが、特定の生徒の提出率が非常に低いことが課題である。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的内容の定着や定着状況の把握のために、小テストや振り返りを行うようにする。 ・科学的思考力向上のために、実験毎に考察を考える時間を十分にとり、レポートやプリントの考察を自分の言葉で表現できるようにし、教科担任が確認する。 ・班での話し合いを多く行い、思考力、表現力の向上と、知識の定着を促す。 ・提出物の提出率が低い生徒への声掛けを行う。
音楽	昨年度の課題	ねらいや手だてを明確にし、感性を高め、思考・判断し、表現する過程を大切にしながら、技能を定着させることによって音楽表現をさらに豊かにすることを重点的に行った。また、新学習指導要領で加えられる「音楽文化についての理解を深める」という目標についても、生徒に発表させたり、グループ活動を多く取り入れるように工夫をした。しかし、行事・祝日等の関係で2週間に一度の授業になってしまうこともあり、継続した指導が課題である。
	今年度の取組	課題設定、目標をより具体化する授業を心がけ、昨年度と同様、思考・判断し、表現する過程を一層重視し、自ら工夫し、考えさせること、技能を定着させることによって音楽表現をさらに豊かにしていきたい。また、新学習指導要領に基づいた指導内容を増やし、表現と鑑賞を通して我が国や郷土の伝統音楽などに親しみ、さまざまな音楽にも興味を広げ、創意工夫して表現する能力と幅広く主体的に鑑賞する能力を高める指導を心がける。

港区立高松中学校 各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間の授業改善推進プラン

美術	昨年度の課題	ICT 機器と併せて持続的な視覚資料を、実生活や実社会とつなげた題材を取り入れたことで「美術への関心・意欲・態度」の観点が高まった。しかし、「発想や構想の能力」である、独創的で個性豊かな発想や構想を練る力が不十分である。鑑賞活動を充実させる等、画一的な表現に留まらず、造形の要素の働きやイメージなどを豊かに捉えながら美的、創造的な構成を考える学習活動を展開する必要がある。
	今年度の取組	発想や構想に関する資質・能力を育成するための工夫として、主題を自ら生み出す活動を單元ごとに取り入れることで、自らが強くイメージしたことを主体的に追求して発想し構想を練り、表現することにつなげる。また、鑑賞活動を充実させ、対話を通した主体的な感じ方や見方を大切にしながら、作品の造形的な要素に着目して捉える視点を育む。作品制作においては、制作過程を再度深く見つめたり、本質を捉え直したりして、生徒の多様な個性やよさが伸ばせるように工夫する。
保健体育	昨年度の課題	体育分野においては、全体的な体力要素が低いと、どの項目においても底上げをしていく必要がある。「投力」と「持久力」を高めるための取り組みが必要である。 保健分野ではグループ学習を通してロールプレイング的な学習を取り入れることで、「思考・判断がより充実させられるように指導する必要がある。
	今年度の取組	單元ごとに到達目標を明確にし、目標達成のために何をすべきかを考え行動につなげられるように指導法を工夫する。 個人の目標設定をさせ、その目標達成のための手段を自ら考え行動に移すことを促す。また、そのチェックや助言を教師が行うことで、よりの確で効果的な学習活動につなげていく。
技術・家庭	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・物作りなどの製作作業に関する興味・関心は比較的高いが、理論や知識といった観点については関心が低い。 ・発想力は豊かではあるが、自分の考えを実現させるためにはどういったプロセスで制作していく必要があるのかを自身で導くことができず、製作が行き詰ってしまう生徒が多い。 ・コンピュータに対する興味は高いが、あくまでもインターネットや動画再生のツールになってしまっている。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・実習教材などを見直し、作業工程を工夫することで進んで創造する能力を育てていきたい。 ・1 單元ごとに目標を決めさせ、達成させるよう指導内容・指導方法を改善していく。 ・自身の発想を他者に分かりやすく説明することを計画を立てて実践させる。
外国語 (英語・国際)	昨年度の課題	昨年度は、学力調査において、目標値や全国平均値は超えているものの、区内の正答率と比べると低い傾向にあることがうかがえた。特に、中3では、語彙の知識はありながら、整序英作文を不得手としていたり、中2では、場面に応じて書く英作文を苦手としていたりすることがわかったので、「書くこと」の指導に重点を置いた授業の展開をしていく必要があると認識したのが、昨年度の課題であった。
	今年度の取組	学力調査の結果から、中3については、今年度も目標値や全国平均値を超えるものの、区内の正答率と比べると低い傾向にある。ただ、場面に応じて書く英作文の問題では、全国・区内共に超えており、「書くこと」の指導の成果と思われる。語形・語法の知識・理解が目標値を下回っているため、今後、基礎基本の徹底を図る必要がある。中2については、全国・区内共に超える正答率を出しているが、領域別では、英作文での高い正答率に対して、リスニングにやや力が劣る傾向がみられるので、今後強化すべきポイントとして挙げられる。
道徳	昨年度の課題	授業時数を確保することが難しかったことや、学年や教師により道徳の授業に対する温度差があったことが課題として挙げられる。 道徳の授業に不安を抱える教員がいる一方、経験豊かな教員も多くいるので、全体での共通理解や情報交換、授業見学の場の設定も必要とされた。
	今年度の取組	「特別の教科 道徳」の完全実施に向けて、校内研修を行い、全教職員の共通理解を図る。 今後の道徳の授業のイメージを押さえ、生徒に問題意識を持たせ、議論や役割演技等を通じ、道徳的価値の意味を考えさせる授業づくりに取り組んでいく。評価方法や授業の仕方などについてはさらに検討を深めていく。

港区立高松中学校 各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間の授業改善推進プラン

特別活動	昨年度の課題	各行事に関する取り組みにでは、計画に基づき活発な活動が行われ、生徒の資質・能力向上に大いに役立っている。一方で、日常的な運用に関しては、各学年の裁量に任されることが多く、組織的な計画に基づく実施が弱い部分がある。
	今年度の取組	行事を通じた活動は継続して、生徒の意欲や力を高めることに活用していく。同時に年間指導計画を基本にしながら、学年の状況などに応じて、よりよい人間関係を構築していくことができるような活動を計画的に実施していく。
総合的な学習の時間	昨年度の課題	第二学年で上級学校訪問をおこなうなど、次年度を見越した計画的なキャリア教育をすすめることができ、各学年ともに様々な活動を工夫して行うことができたが、教科横断的な学習を取り入れ、より、多角的な学習、系統的な学習を三年間を通して継続することが課題である。
	今年度の取組	これまでの学習を継続しながら、より、計画的に三年間を見越したキャリア教育をすすめていく。また、行事のまとめの発表、展示など各教科での取り組みがいかされる実践の場として、総合的な学習の時間を活用していく。